

地域における日本語教育の「特定のニーズ」について考える  
～特定のニーズに対応した日本語教育実践とその普及～

# 対話を通じた基礎的な日本語教育

## R3年度・R4年度 ひたちなかコース

ひたちなか市国際交流協会

副会長・日本語支援プロジェクトグループ 担当  
仙波美哉子



こくさいちゃん

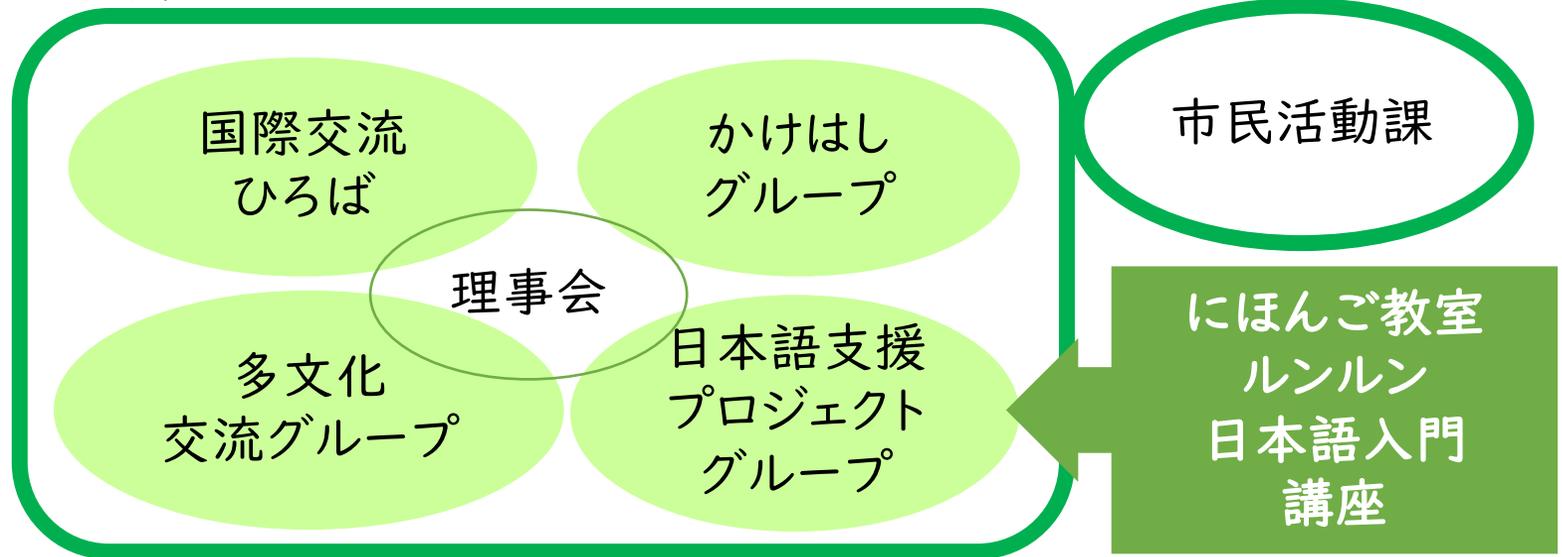
# 団体概要

## ひたちなか市国際交流協会

- 設立 2009年10月
  - 会員 148人
  - 団体会員15団体
  - 賛助会員 7団体
- (会員数:2023年11月末現在)



### 組織図

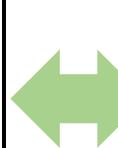


### 日本語支援の流れ

日本語入門講座  
(Japanese Beginners Class)  
年3コース開催  
(10回/1コース)



- にほんご教室ルンルン
- 水曜日夜 (毎週)・午前 (隔週)・・・対面
  - 日曜日午後 (隔週)・・・対面
  - 金曜日夜 (毎週)・・・オンライン
  - 子ども学習支援・・・オンライン/対面



イベント、地域  
活動への参加

# ひたちなか市の状況

人口 155,873人 (R5年11月末現在)

在住外国人人数 2,340人 (R5年11月末現在) ← 1.5% (人口比)

ひたちなか市在住外国人について (R4年12月末のデータより)

国 : 中国、ベトナム、フィリピン、インドネシア…

在留資格: 永住者、技能実習生、技・人・国、特定技能、家族滞在、定住者…

## ひたちなか市国際交流協会日本語支援の課題

- 日本語支援のための人材不足
- 日本語が話せない・読めない外国人参加者の増加
- 日本語学習が継続できるための対策

# 連携のきっかけ

## 日本語支援プロジェクトグループ 課題解決のための取り組み

《日本語初期学習に関する課題》

「地域で生活するために日本語の学習を始めたい」参加者は増加してきたが、継続しない。 主な理由:回数が少ない・行ける時間や場所に日本語教室がない・子育て中

《課題解決策》

日本語入門講座 (Japanese Beginners Class) の開催

習得のためには  
10回以上必要

ひらがな・カタカナ・地域生活に必要な日本語を短い期間で効率よく習得できる場所の提供

R1年 市内3ロータリークラブから支援  
(講師費用・託児費用)

支援は5年を目途  
(ロータリークラブ担当者談)

行政主体で行うために  
実践的裏付けが必要

R3・R4 基礎日本語教育実践研究事業 ひたちなかチームとして参画

## 連携から見えてきたこと

R3 地域日本語教室での対話的な日本語活動につなげるための基礎日本語教育実践研究事業

- ・初期学習者が対話的な活動で日本語力をつける ⇒ 地域への参加意識が高まる

R4「生活者」のための公的な基礎日本語教育の実践研究事業

- ・読み書き能力の向上 ⇒ 話す能力（やり取りの流暢さ、自己表現力）にも変化

## 今後の取り組み

- 本事業での実践をもとに、公的な基礎日本語教育への提言
- 日本語教育を通して「だれもが安全・安心に暮らせる地域づくり」を推進

ご視聴ありがとうございました。



こくさいちゃん